

~WITH コロナの社会人基礎力とリカレント教育~

■2020 キックオフ・フォーラム(6月リカレント委員会&勉強会)を開催致しました。(ご報告)

- 1)日時:2020年6月27日(土)10:00AM~12:00AM/2)参加者:9名(企業3・大学2・協議会4)
- 3)進行概要(司会:石田事務局長):①開講の辞(芝原委員長) ②協議会キックオフ挨拶(長尾代表理事)
- ③勉強会課題提起(委員長発議):「コロナ時代の社会人基礎力とリカレント教育」:<下表■(1)&■(2)参照>
- ④参加者自己紹介(進行:渡邊副委員長):自粛期の過ごし方と近況報告(公私での思いと行動の変化など)
- ⑤意見交換(ZOOM会議方式):参加者全員による約60分の自由な発表と質疑応答・意見交換。
- ⑥主な意見:●企業(全員がテレワークでの業務推進中、リモート営業の定着化傾向・働き方&オフィス改革の進行)
- 大学(オンライン授業実施中、全教員の不慣れと戸惑いから苦勞と負担大。準備とフォロー等で工夫・改善に着手。
- テレワークやリモート営業&オンライン授業のメリット・デメリット(功罪分析)を今後いかに活用して、併用等その効果性を高めることが課題。●共通のテーマとして「コミュニケーションの欠落」が各場面・各階層で見え始め、会議前の「雑談タイム」の奨励等、従来無駄・不効率とされていた時間の意味や有効性を考え直すことが提示されました。

■「WITHコロナ」時代を凌ぎ乗り越えるパワー(能力)は「社会人基礎力」だと確信します。

●人生100年時代を迎え、ライフステージ毎の「リフレクション(振り返りと気づき)」が提唱され「リカレント思想(再現/循環)」が定着してきました。2020年に入り「新型コロナ」が「自粛」と共に日常生活を揺り動かしました。●「STAY HOME」「三密(密閉・密集・密接)回避」「ソーシャルディスタンス」「マスク・手洗い」などの「新・生活様式」が求められました。これは、「人と人の関係性の変化」や「社会の中での個の在り方」と共に、知識・能力スキル・マインド面の習熟度と適応力が問われてきました。いま「コロナ時代のリカレント教育」では「何を学ぶのか」「どの様に学ぶのか」「どう活躍するのか」という観点が一層重要になりました。(次回フォーラムは7/25(土)7月度リカレント委員会を開催予定です)

■(1) コロナ時代と社会人基礎力

~社会的課題「3つの視点」からリカレント教育を考える~

- ◆視点1:新・生活様式が求められる
 - ・自粛・STAY HOME・ソーシャルディスタンス・テレワーク
 - ・在宅勤務・リモート会議・オンライン授業の普及
- ◆視点2:安全・安心と経済の両立
 - ・安全・経済は科学で検証し担保出来る。しかし...
 - ・安心は信頼と心(ものの見方考え方)から生まれる。
- ◆視点3:産業革命2020
 - (1)労働改革...人材の流動的な活用(兼業・副業・働き方改革)
 - (2)事業改革...事業の新規開発・開拓(経営資源の高度活用)
 - (3)産業改革...企業活動の変革(選択と集中/デジタル化とAI展開による産業革命の推進(ヒトの立場と役割/求められる能力))

■(1)3つのキーワードとリカレント教育の実践
●新・生活様式/安全安心と経済/産業革命に適応出来る総合力養成をキャリア教育・生涯学習プログラムに組み入れ、企業・個人が積極的に取組む事が喫緊の課題だと着目しています。

■(2) WITHコロナの社会人基礎力

~鍛え磨く3つの能力と12の能力要素~



■(2)コロナと共生する「社会人基礎力」とは。
●「与件の中で戦う」。「言い訳をせず結果を出す」。いまは「有事」であることをしっかり認識して行動すること。「自分の城は自分で守る」(自分・家族・企業・社会・国家を主体的に守る能力を深耕する)